

鑑賞の手引き

カメラがどこにあるか、注目しよう

ドローンやデジタルカメラなどいろんなカメラがワークショップ中に出てきます。カメラの中で、どのようにみんなが写っているのかイメージしてみましょう。カメラと人の見え方には違いがあり、新しい発見がそこにはあります。

自分とみんなが、どこにいるか注目しよう

鑑賞会の映像の中で、自分がどこにいたか思い出してしてみましょう。自分とみんなが溶け合って、みんなの中に自分がいて自分の中にみんながいることに気づくことができます。

みんなで作ったアートの力に、注目しよう

アートには、新しい発見だけではなく、みんなと自分の同じところや違うところを考えるきっかけを作ることができます。みんなで作ったアートにはみんなの気持ちが形になっていることが発見できます。



団体紹介：

東北芸術工科大学 屋代研究室とは？

東北芸術工科大学屋代研究室は、2007年より、アートと教育の新たな可能性を探求しています。屋代敏博教授は、写真家としても活躍し、「回転回」シリーズなど、身体を使ったユニークな表現で知られています。屋代敏博教授の実践的な活動と連携し、大人から子どもまでが楽しめるワークショップを開催しています。

学校巡回公演

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

令和7年度 学校巡回公演

東北芸術工科大学

屋代研究室

「映像であそぼう」

さいたま市立土合中学校 編



舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）
独立行政法人日本芸術文化振興会

種目・演目紹介

10:55-11:45



ワークショップ①
みんなで渦を作ろう

体育館で列を組み、回転やウォーキングをすることで大きな渦を作ります。
高所からカメラマンが長時間露光（※用語1）をすることで、モーションブラー（※用語2）が起き、渦が生まれます。

11:55-12:45



ワークショップ②
「みんなで地球人を作ろう」

ゼッケン、部活着などカラフルな服や、持ち物を持って体育館で行います。
地上絵のように、巨大でカラフルな「地球人」の形をみんなで歩くことで作っていきます。
カメラマンがハイアングル（※用語3）から撮影し、「地球人」が動き出す様子を表現していきます。

13:45-14:35



メインプログラム
「鑑賞会」

給食

給食の時間が終わったら、みんなで作った映像作品を見ましょう。
みんなの作った形がふわっと溶けあい、どんどん形が変わっていく、特別な映像作品が鑑賞できます。
工夫した点や感想を話し合い、記念写真を撮って終了です。

タイムスケジュール



- 10:55-11:45 みんなで渦をつくる
- 11:55-12:45 みんなで地球人をつくる
- 12:45-13:45 給食・昼休憩
- 13:45-14:35 鑑賞会・振り返り・記念撮影

用語説明



長時間露光（※用語1）...

カメラを使って長い時間うつすことで、動きのあとを画面に残す表現方法です。たとえば、人が動いたり、手をふったりしたときに、その動きが線やぼかしとして映像にのこります。通常は一瞬だけを写しますが、この方法では数秒～数十秒の動きを1枚の画におさめることができ、目では見えない動きの軌跡が見える形にすることができます。スポーツやダンス、人の流れなどの動きを、流れるような形や光の線として表すことができます。

モーションブラー（※用語2）...

モーションブラーは、動いている被写体を撮影した時に生じる、または意図的に作り出すブレのことを指します。シャッター速度が被写体の動きよりも遅い場合、被写体が露光中に移動するため、その軌跡が写真に残り、モーションブラーが発生します。写真や動画でよく用いられ、動きや速度、躍動感を表現する効果があります。

ハイアングル（※用語3）...

ハイアングルとは、物を上から下に見下ろす角度のことです。たとえば、建物などの上から撮った写真や動画がハイアングルです。高い場所から見た景色や、物の置かれ方をよく見るすることができます。